

KOYO FRANCE S.A.

- 光洋フランス, KF -

1. 会社概要

社名 KOYO FRANCE S. A.
 所在地 フランス ヴァルドワーズ県アルジャン
 トーユ
 創立 1975年4月
 資本金 33055千FFR
 従業員 34人
 業種 ベアリング販売

2. 地域の紹介

光洋フランスのあるアルジャントーユはヴァルドワーズ県の副県庁所在地です。

ヴァルドワーズ県はフランスの中央北部にあり、パリとその近郊を含むイルドフランス地方の北部に位置する県です。パリ近郊は大郊外と小郊外に分けられていて、その大郊外にあたります。郊外は、若くダイナミックな地域でもあり、とりわけ大郊外は1970年代に人工的に造られた都市を中心に、パリの衛星都市では満足せずに県の特性を出そうと努力しています。特にヴァルドワーズ県は近年、日本との文化経済活動に力を入れてきました。

ヴァルドワーズ県は、パリ盆地の一部から国立公園ベクサン地方にまたがって広がった地域を占めています。県の中央にはゴッホが自殺する前の100日で100枚の絵を描いたと言われるオーベルシュールオワーズがあり、オワーズ川が流れています。また、モンモロンシーやリラドン森の緑にも恵まれています。

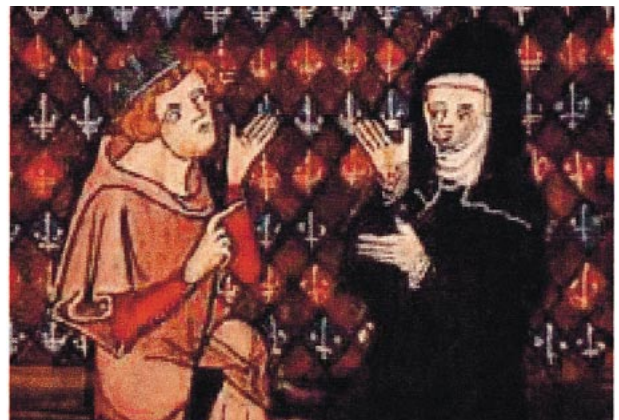
県の北西部の都市化されていないところは穀類の生産地帯になっており、県北部ではじゃが芋や甜菜の生産が中心になっています。

さまざまな分野にわたる工業活動も盛んで、特にブルジェやロワシー空港のある県東部に工業活動が見られます。また、近郊高速鉄道(RER)や自動車道A1、A15に加えて最新のA16高速道路等の交通手段の発達のおかげで県南東でも都市化が進んでいます。特にセルジーポントワーズを中心に商業第三次産業が盛んです。

アルジャントーユは重工業、化学工業、電気製品工業、ゴム工業および薬品工業が中心となった

工業の都市でもあると同時に、フランスの首都パリに近いおかげでパリやパリ近郊で働く人たちの居住地にもなっています。

歴史的にはアルジャントーユ市は紀元7世紀に建てられたアルジャントーユ修道院を中心として発達した町です。12世紀にフルベールの姪のエロイズがアベラールとのならぬ恋の果てにこの修道院に入り、サンドニの修道院に入れられたアベラールとの恋文の交換をしたのは有名な話です。



エロイズとアベラールの別れの場面

19世紀に入ってから、パリ市民の台所に野菜を供給する野菜栽培農家が多かったようです。

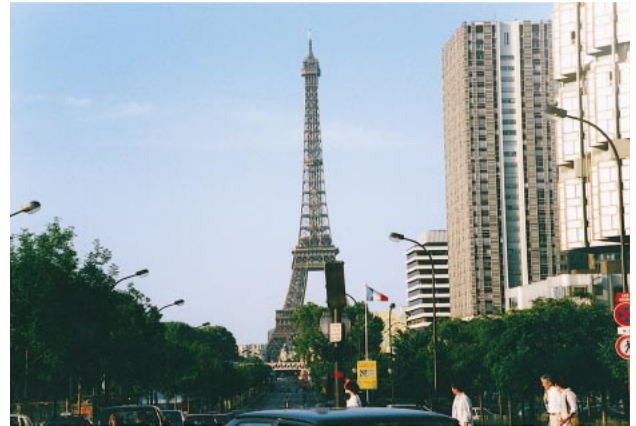
1870年代にはモネ、マネ、ドガ等の印象派画家の居住地としても知られるようになりました。特にモネの絵の中には、パリのオルセー美術館に展示されている「アルジャントーユの橋」をはじめ、この町をテーマとした絵が160枚あります。モネの家によく滞在したマネも「アルジャントーユのセーヌ川」などの絵を残しました。

1990年の国勢調査によると市の総人口は94162人、総面積1722ヘクタールでイルドフランス地方では4番目に大きい市です。

次にフレンチパラドックスの例について紹介しましょう。

フランスの高校で使っている日本語の教科書を覗いてみたら、フランス人を表現する絵は三色旗、ベレー帽にバケットパンでした。日本でも着物姿がすっかり少なくなったように、フランスでもベレー帽が野球帽にとってかわられてから久しくな

ります。フランスの得意産業といえばアエロスパシアルやフランス人が発明したCarte puce(テレフォンカードや、クレジットカードに埋め込まれているICチップのこと)が挙げられます。それでは、フランス人は伝統的なものを見捨ててしまったかという、アメリカがロックフォールチーズを100%課税したらマクドナルドを壊してしまうほどの剣幕でした。コカコーラもマクドナルドも一番進出しづらい国なのです。このような最新技術と伝統の同居はフレンチパラドックスの一例として挙げられます。



エッフェル塔

統領と首相が同じ保守のRPRだった時代には国民の不満が多かったのに、現在の2政治家の支持率は常に50%以上となり、2年以上もコアビタシオンの状態が続いています。この状態を皮肉って同性愛を思わせるほどの共存関係だからPACS(連帯市民契約：結婚をしていないけれども、同等の権利を持つ。同性愛者を含む)であるとか、いや右と左が同居しているのだからマリアージュ(結婚)だとかいわれています。フランス人は、良くマリアージュ(結婚)という言葉を使います。洋服や品物を選ぶ時でも、しばしばマリアージュの表現を使います。2つの色が合うかどうか、それは同色や同質である必要はなく、むしろ違った色、別の特性を持つものがお互いを尊重し合って、調和し、共存できることがマリアージュです。どちらからの方向にせよ、一方通行はマリアージュの中では成立しません。そういうことを考えながら仕事をしていけるのがフランスであると感じます。



バステューユ広場

以前フランス小話で「オリンピックでフランスの得意競技はライフル伏射である」と言われていました。つまり、高等技術を必要とする個人競技で、しかも寝技ですからベッドシーンでしか強くないという意味です。ところが、1998年にサッカーのワールドカップに優勝して以来、ラグビーまでオールブラックスを準決勝で屈辱的なスコアで負かしてしまったり、団体競技が得意競技になってしまいました。個人主義のフランス人がなぜ団体競技のサッカーに強いのか、これもフレンチパラドックスです。2000年1月から法定労働時間を週35時間にしようという法律が国会を通過しようとしています。簡単に35時間法と言っていますが、内容は労働時間を少なくして、失業者を減らし、生産性を上げようというのですから、まさに手品のような法律ですが、なんとこの法律をうまく利用して皆がハッピーになっている会社もあります。ただし、全ての会社ではないのが残念ですが、これもフレンチパラドックスです。

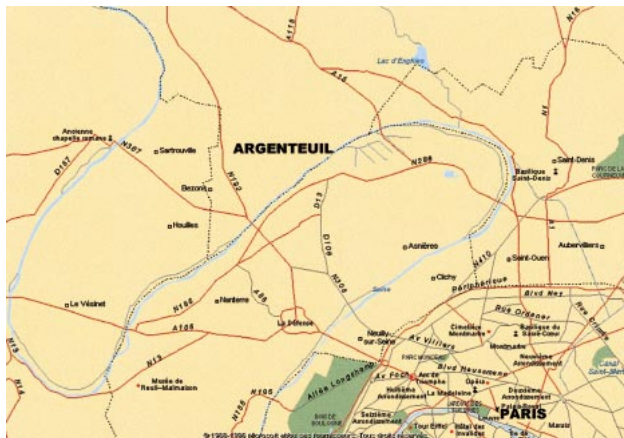
フレンチパラドックスの典型的例としてコアビタシオン(共存・共同生活)も挙げられます。RPR(共和国連合：保守系)のシラク大統領とPS(社会党)のジョスパン首相が不思議と一緒に国政、外交をリードしていて、しかも成功しています。大



モンマルトルの街

3. 会社の紹介

Koyoのベアリングは、欧州のフランス関連市場においては、1970年代初期からフランスとアフリカに拡販し始めましたが、1975年4月に丸紅と光洋精工の共同出資でアルジャントーユに現在の事務所と倉庫をかまえるに至りました。



アルジャントーユの地図

アルジャントーユはパリから15kmという便利さに加えてモネをはじめ印象派の画家に愛された町で、そこに始めて進出した日系企業となったわけです。

今では、パリ近郊に日系企業が数多く進出していますが、25年前のアルジャントーユの工業地帯といえば、まともな歩道のついた道もなく、道路標識や工業地帯入り口の会社案内など全くない未開発地帯ともいえる地区でした。設立とともに入社したスイサ女史は、当時、絨毯の上に手動式タイプライターを置いて、フランス人ながら日本人のように正座して、最初の通関書類をタイプした話を今も思い出として語ってくれます。



光洋フランスのメンバー

1983年に光洋精工の100%出資会社となり、1986年には当初の2倍に当たる450㎡の事務所となり、倉庫も3000㎡に増やしました。

1991年には当時ヨーロッパで、出遅れていたパワーステアリングの輸入販売を開始し、ルノーに納めるようになりました。それがきっかけでリヨン郊外にあるSMI(Société de Mécanique d'Irigny) というステアリングの生産会社を光洋精工が欧州での自動車部品の開発・生産・販売の中心拠点とすることになり、その仲介者となったわけです。

当初、取り扱った日本製パワーステアリングがSMIによる現地生産となってからも、ベアリングのみにとどまらず、テンショナやイドラのような自動車用ユニット製品も積極的に輸入販売するようになりました。自動車分野以外でも農機・鉄鋼・医療・一般産業機械等、幅広い販売活動を行っています。

1990年以降、日本でもグローバルゼーションという言葉が盛んに使われ、またヨーロッパではEU統合が活性化してきました。光洋精工がイギリスにベアリング工場をつくったことをきっかけとして、光洋フランスは30%以上のベアリングをヨーロッパ生産品に切り換えています。これからも、もっとヨーロッパ生産品の販売比率を上げていこうとしています。

現在の光洋フランス売上高の約60%が自動車産業、約10%が鉄鋼業、残りがその他の産業と市販・輸出です。フランスのベアリング市場に占めるシェアはまだまだ小さなものです。それだけに、今後の発展の可能性を持っていると考えますので、引き続いて挑戦したいと思っています。

製品の販売活動とはいえ、製品の開発・営業交渉・生産・納品や日々のやり取りの中で、日本の部隊とフランスの顧客の間を仲介して感じるのは、我々は単に経済活動をしているのではなく、日仏両国の文化をつないでいるということです。

4. 今後の展望

これからも世界の主要都市のひとつであるパリ・アルジャントーユで光洋レディと光洋マンは本当の意味でのマリアージュを求めて21世紀の活動を続けていきます。

(光洋フランス 久子COURANTON)